Express5800/R110k-1M (2nd-Gen) ご使用時の注意事項

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用にあたり、ご注意いただきたいことがあります。お手数ですが、ご使用前に下記内容を必ずご一読ください。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

◇ Index

1) はじめに
2) 装置起動時に関する注意事項
3) システムROMの機能に関する注意事項
4) iLO6の機能に関する注意事項
5) OSに関する注意事項
6) 全般の機能に関する注意事項
A) ファームウェア更新に伴う変更点

1) はじめに

● 本製品のマニュアルについて

本製品に関する詳細は、以下の Web サイトに掲載されているマニュアルを参照してください。
https://www.support.nec.co.jp/

「NEC サポートポータル内検索」より、「3170102962」を入力して検索してください。

また、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentService、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)/エクスプレス通報サービス(MG)に関しては、
ESMPRO 日本語ポータルサイト https://jpn.nec.com/esmsm/
NEC サポートポータル https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124
の最新の情報およびバージョンを確認し、適切なソフトウェアを使用してください。

● Starter Packについて

本製品で使用する Starter Pack は、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。
Web サイトに掲載の内容を確認し、バージョン S8.10-013.01 以降を適用してください。
https://www.support.nec.co.jp/
(「NEC サポートポータル内検索」より、「Starter Pack Version S8.10-013」を検索)

● VMware ESXi/ESXのドライバー・サービスモジュールについて

本製品で使用する VMware ESXi/ESX のドライバー・サービスモジュールは、以下の Web サイトに最新版が掲載されています。Web サイトに掲載の内容を確認し、適切なバージョンを適用してください。

・ Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver
https://www.support.nec.co.jp/
(「NEC サポートポータル内検索」より、「Agentless Management Service」を検索し、【最新版】と表示される「iLO6 FW X.XX 以上専用 Agentless Management Service および iLO Channel Interface Driver (VMware ESXi/ESX 8.0/9.0 版)」を適用してください。ESXi 7.0 をご利用の場合は、【旧版】と表示される該当の iLO6 FW X.XX 以上専用で、お使いの ESXi バージョンに対応したものを適用してください(X.XX は数字)。)

・ WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツール
https://www.support.nec.co.jp/
(「NEC サポートポータル内検索」より、「CLI ツール (SSACLI)」を検索し、対象 OS と対象 Starter Pack の WBEM プロバイダ(not applicable)および CLI ツールを選択)

・ MegaRAID ユーティリティ(StorCLI)
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3010101744
(「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」から対象 OS と対象 Starter Pack の「MegaRAID ユーティリティ (StorCLI)」を選択)

・VMware ESXi/ESX デバイスドライバ

https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140105866

（「PC サーバ/ブレードサーバ(Express5800 シリーズ)」から対象 OS の「デバイスドライバ一覧」を選択）

● **オンボードのRAIDコントローラ(Intel(R) Virtual RAID on CPU(VROC))ご使用時の注意事項**

オンボードの RAID コントローラ(Intel(R) Virtual RAID on CPU(VROC))を使用する場合、Smart Storage Administrator や MegaRAID ユーティリティではなく、Intel(R) Virtual RAID on CPU(VROC)専用のユーティリティを使用してください。
詳しくは、Starter Pack 内の「Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ VROC8 / VROC9.0 ユーザーガイド」を参照してください。

● **本製品の保守作業時間に関して**

本製品は、障害発生時などの保守作業において、保守部材と搭載ファームウェア、ドライバーの組み合わせによっては、保守作業に時間を要する場合があります。

2) 装置起動時に関する注意事項

● **「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合の対処について**

本体装置の電源投入後、まれに「Memory Initialization - Start」のメッセージを表示し、POST 停止することがあります。この現象が発生した場合は、以下の手順で復旧してください。

① 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源をオフにしてください。

② 本体装置前面の POWER スイッチ(または、iLO Web インターフェイスにある Power アイコン)を押して、本体装置が正常に起動することを確認してください。

③ 再度「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合は、システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し、正常に起動することを確認してください。(※)
SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※) システム再起動後に Serial Number、Product ID が消失している場合は、メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」>「5.11 補足事項」>「Serial Number、Product ID が消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product ID の復旧を行ってください。

現象発生時の POST メッセージ

```
NEC Express5800 System BIOS UXX vY.ZZ (mm/dd/yyyy)
Early system initialization, please wait...
System Chipset initialization
UPI Link initialization - Start
UPI Link initialization - Complete
Early Processor initialization
Memory initialization - Start
```

3) システムROMの機能に関する注意事項

● **UEFI Boot Order Controlの注意事項**

システム ROM バージョン 2.32 適用装置では、UEFI Boot Order Control メニュー(※1)で新たなブートデバイスの有効化、または無効化の設定や保存ができません。
詳細は以下の Web サイトを確認してください。
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109992

ブートデバイスの起動優先順位を変更する際は、UEFI Boot Order メニュー(※2)にて行ってください。
また、UEFI Boot Order メニューまたは UEFI Boot Order Control メニューに移動するたびに、画面下段にある"Changes Pending"文字列の前に赤い◎が表示されます。
必要に応じて<F10>キーを押下し、設定の保存を行ってください。

(※1)「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order Control」
(※2)「BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Order」

システムROMバージョン2.44ではこの問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

4) iLO6の機能に関する注意事項

● **iLOの再起動を行う場合の注意事項**

以下に示すタイミングにおいては、iLOの再起動(※1)を行わないでください。
・ サーバー起動からOSの起動完了までの間(POST実行中も含む)。
・ システムユーティリティの操作途中。

(※1) システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での設定変更後のiLOの再起動については、本書の「**システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**」を参照して操作してください。

該当タイミングでiLOの再起動を行うと、予期しない動作を引き起こす可能性があります。
例えば、POST実行中にiLOの再起動を行うと、iLO Webインターフェイスの「Information > Overview」ページにおけるUUID、UUID(論理)が正しく表示されない場合があります。また、システムユーティリティの設定変更などの操作の途中でiLOの再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)で「Memory Initialization - Start」のメッセージで停止する場合(※2)や、本体装置に記録されているSerial Number、Product IDなどの設定情報が消失(※3)してしまう場合があります。
もし上記のような不正な表示や動作が発生した場合は、一度本体装置の電源をオフにし、再度オンにしてください。本体装置の電源をオフ／オンしても事象が再発する場合は、事象に応じて注記(※2)または(※3)の手順で復旧してください。

＜対象となるiLOの再起動の方法＞
・ iLO Webインターフェイスなどを利用したネットワーク経由でのiLOの再起動。
・ UIDスイッチを使用したiLOの再起動。

(※2) システムメンテナンススイッチ SW6 にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。SW6 の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4 システム設定情報の初期化」>「7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。

(※3) メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」>「5.11補足事項」>「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の項目を参照し、Serial Number、Product IDの復旧を行ってください。

● **iLOのダウングレードポリシー機能の注意事項**

iLOの拡張ライセンスがインストールされている場合、「Security > Access Settings > Update Service > Downgrade Policy」の設定を[Permanently disallow downgrades]に変更しないでください。
[Permanently disallow downgrades]に設定した場合、ファームウェアのダウングレードを行うことができなくなります。
また、この設定は一度設定すると永続的に保持されるため、「Set to factory defaults」からiLOを出荷時のデフォルト設定に戻しても、その他のiLOの各種インターフェイスや各種ユーティリティから設定変更を試みても、[Permanently disallow downgrades]設定は維持されたままになります。

● **iLO連携グループファームウェアアップデート機能について**

本機能を使用する場合は、iLO6ファームウェアバージョン1.52以降であることを確認してください。
iLO6ファームウェアバージョン1.30、または、1.41の環境において、iLO Webインターフェイスの「iLO連携 > グループファームウェアアップデート」ページを開いたとき、以下のような「呼び出しに失敗しました」というメッセージが表示され、機能を利用することができません。

※ 表示されるエラー内容は、将来、変更される可能性があります。

● **iLOの時刻設定について**

iLOの時刻設定については、適切な時刻補正を行うために、iLO Webインターフェイスにて SNTPの設定を行い、NTPサーバーを利用した定期的な時刻の自動補正が行える状態で使用することを推奨します。
iLOのSNTPの設定方法については、iLO6ユーザーズガイドを参照してください。

● **iLO Webインターフェイスのセキュリティアイコンに関する注意事項**

RBSUの設定やiLOの設定の内容によって、iLO Webインターフェイスの「Information > Security Dashboard」および画面右上のセキュリティステータスにリスク(赤色)が表示される場合があります。表示されるリスクの内容を確認し、お客様のセキュリティポリシーに応じてセキュリティの対処を行ってください。
推奨値などの詳細については、iLO6ユーザーズガイドを参照してください。
ただし、[Require Host Authentication]設定については、本書内の**「iLO Webインターフェイスの[ホスト認証が必要]設定における注意事項」**に記載がありますので、確認してください。

iLOの負荷状況によっては「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が『リスク』であっても、iLO Webインターフェイス画面の右上部の”iLOセキュリティ”アイコンが無色になる場合があります。「Information > Security Dashboard」の”全体セキュリティステータス”が現在のセキュリティ状態を示します。

● **iLO Webインターフェイスの「ホスト認証が必要」設定における注意事項**

「Security > Access Settings > iLO」にある「ホスト認証が必要/Require Host Authentication」を[有効]に設定しないでください。

[有効]に設定を行った場合、次に示す状況が発生します。
- ESMPRO/ServerManager のアラートビューアに、「Remote Insight/Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出」のメッセージが多数表示されます。
- Starter Pack (Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能を利用できません。
- エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- RAID 通報サービス
- サーバ診断カルテのハードウェア診断機能
- iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

NIST SP 800-193 運用環境を構築される場合は、以下の URL に掲載された運用手引きを参照し OS 環境構築後、NEC iLO アカウント登録ツールをインストールのうえ、[有効]に設定してください。

https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3140109677
参考資料：NEC Express5800 /NX7700x シリーズ NIST SP 800-193 準拠 運用構築手引き

● ネットワークブリッジ構成時のiLO Webインターフェイスのネットワーク情報の表示について

ネットワークをブリッジ構成で使用する場合、iLO Webインターフェイスの「Information > Network > Physical Network Adapters」に表示される内容がOS上の内容と一致しない場合があります。ブリッジ情報の詳細は、OS上のネットワークアダプターのプロパティで確認してください。

● オンボードのRAIDコントローラ(Intel(R) Virtual RAID on CPU(VROC))のSATA RAID表示に関する注意事項

iLO6ファームウェアバージョン1.59以降の適用装置：
オンボードのRAIDコントローラ(Intel(R) Virtual RAID on CPU(VROC))のSATA RAID構成時、iLO Webインターフェイスの「System Information > Storage」の表示が以下のようになります。

・「Storage Summary > Volumes」において、「Count」が「0」、「Health Summary」が「利用不可」と表示される。
・「Storage Controllers」において、SATA RAID構成のストレージコントローラを選択すると、「Unconfigured-Drives」と表示される。

VROCのSATA RAID構成時のドライブ情報を参照する場合には、OS上のIntel VROC GUIまたはIntel VROC CLIを使用してください。

詳細は、「Intel(R) Virtual RAID on CPU ユーティリティ VROC8 / VROC9.0ユーザーガイド」を参照してください。

● RESTful API Errorが発生した場合の対処について

POST実行中、まれに以下のようなRESTful API Errorが表示され、Integrated Management Log (IML)に記録されることがあります。本イベントが記録された場合、各種監視ソフトウェア(※)からのiLOへのアクセスが正しく行えないことがあるため、iLOの再起動を実施してください。

(※) ESMPRO/ServerAgentService、RAID通報サービス、サーバ診断カルテ、装置情報収集ユーティリティ

例：Severity：Caution、Event Class：0xA(UEFI)、Event Code：0x333または0x338
Description：%1 RESTful API Error - Unable to communicate with %2 FW.
BIOS configuration resources may not be up-to-date.

● iLO WebインターフェイスのAgentless Management Service (AMS)のステータスについて

iLO Web インターフェイスの「System Information > Summary > Subsystems and Devices」の Agentless Management Service (AMS)のステータスにおいて、ステータスが不明(または利用不可能)(※)と表示されている場合は、iLO の再起動を実施してください。またその後 10 分程度経過してから、以下の Agentless Management Service (AMS)の再起動方法に従って、Agentless Management Service (AMS)を再起動してください。

＜Agentless Management Service (AMS)の再起動方法＞

・Windows の場合
「Windows の管理ツール > サービス」で「Agentless Management Service」を右クリックし、再起動してください。

・Red Hat Enterprise Linux 8.x の場合
以下のコマンドを実行します。

```
# systemctl restart smad
# systemctl restart amsd
```

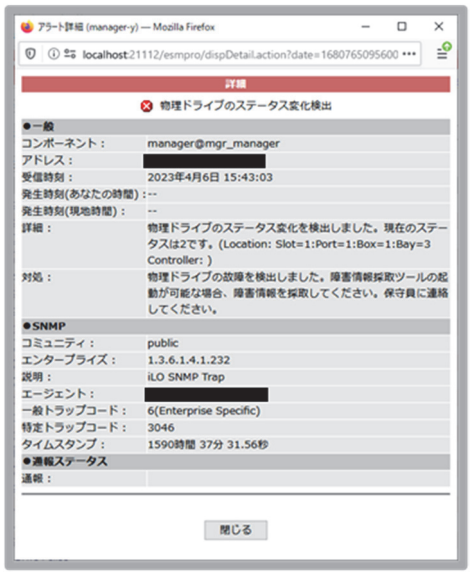
・VMware ESXi/ESX 7.0/8.0/9.0 の場合
以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/amsdv restart
```

(※) Agentless Management Service (AMS)のステータスが不明(または利用不可能)の状態の場合、iLO Web インターフェイスの「System Information > Storage」や「System Information > Network」の一部の情報が取得できず、正しく表示されません。また、この影響により、ESMPRO/ServerManager による IML 監視やエクスプレス通報などが正しく行えない可能性があります。

● **物理ドライブの通報に関する注意事項**

論理ドライブを構成した環境で物理ドライブを取り外した際、物理ドライブ故障に関するエクスプレス通報は通知されません。
また、ESMPRO/ServerManagerのアラートビューアでは「物理ドライブのステータス変化検出」が通知され、詳細欄のステータス値は「2」が表示されます。
いずれも、iLO6の仕様による動作です。
※ ステータス値の「2」は正常(OK)、「3」は異常(Failed)を示します。



● **仮想シリアルコンソールに関する注意事項**

iLO6ファームウェアバージョン1.70の適用装置：
SMASH-CLPからテキストベースの仮想シリアルコンソール表示のためのvspコマンドを実行すると、”VSP is disabled”が表示され、シリアルコンソール出力の表示が行われません。

vspコマンドの代わりに以下のいずれかの方法で仮想シリアルコンソール表示を実施してください。

・SMASH-CLPを使用する場合
start /system1/oemNEC_vsp1
または
cd /system1/oemNEC_vsp1
start

・IPMI I/Fを使用する場合(ipmitoolでの使用例)
ipmitool -I lanplus -C 17 -H <iLO IP address> -p 623 -U <iLO Account> -P <iLO Account Password> sol activate

● **LLDPに関する注意事項**

iLO Web インターフェイスの「iLO Dedicated Network Port > LLDP」において、「Link Layer Discovery Protocol」を有効に設定すると、同一ネットワーク上に LLDP サポート機器が存在せず隣接機器のデバイス情報の取得ができない場合に「LLDP 情報が見つかりません」と表示され、これ以降「Link Layer Discovery Protocol」の有効/無効の切り替えができなくなります。

万が一、設定変更ができなくなった場合には、「BMC Configuration Utility > Set to factory defaults」を実行し、工場出荷時のデフォルト設定に戻すことで解消できます。

● **Server Platform Services (SPS)ファームウェアに関する注意事項**

iLO6ファームウェアバージョン1.70未満の適用装置では、Server Platform Services (SPS)ファームウェアバージョン6.1.4.204.0を適用すると、iLO Webインターフェイスの「Firmware & OS Software > Firmware」でのSPSファームウェアバージョンが正しく表示されないことがあります。

iLO6ファームウェアバージョン1.70以降においては正しく表示されますので、アップデートを推奨します。
また、システムユーティリティのFirmware Informationメニュー(※)では、正しいSPSファームウェアバージョンを確認できます。

(※) 「System Utilities > System Information > Firmware Information」

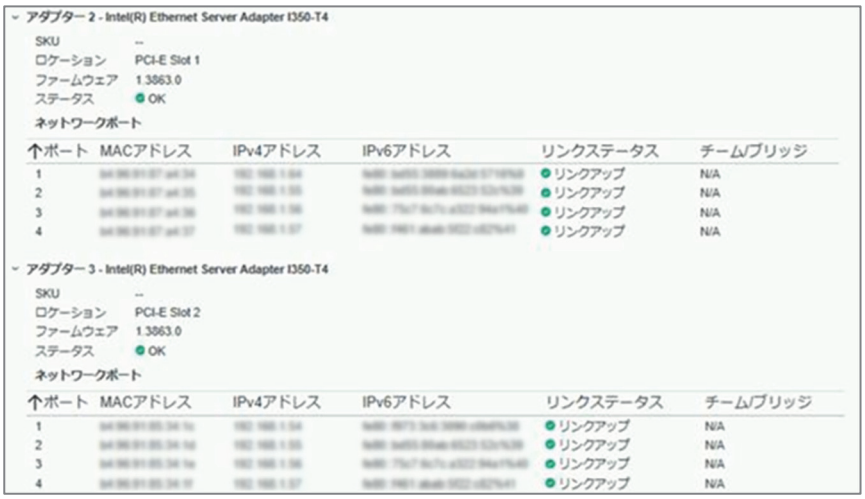
● **ネットワーク情報表示に関する注意事項**

・ iLO6ファームウェアバージョン1.74以降の適用装置では、iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、ネットワークポート情報が表示されない場合があります。
OSのツール(Windows Server:ipconfig、Red Hat Enterprise Linux:ip addrなど)を使用して確認してください。

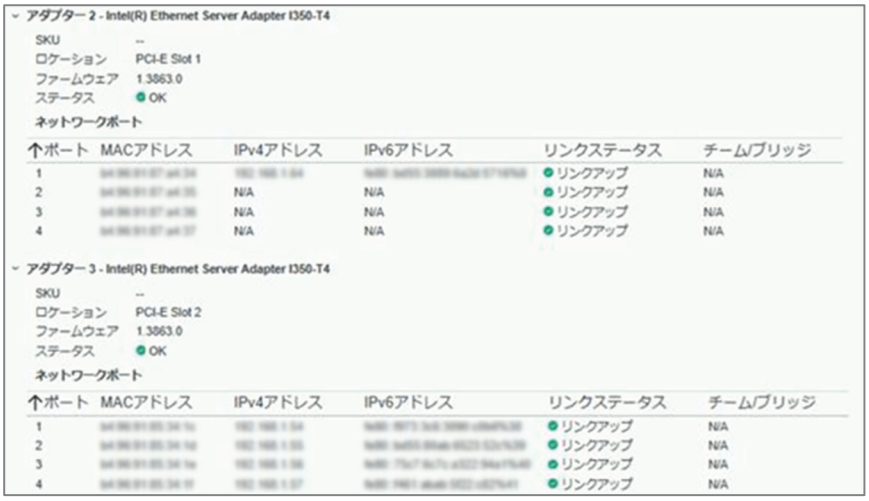
正常時の表示例

現象発生時の表示例

・ iLO6ファームウェアバージョン1.74以降の適用装置では、iLO Webインターフェイスの「システム情報 > ネットワーク」において、PCIスロットに同一型番のNICが複数台搭載された場合、ネットワークポート情報内のIPv4およびIPv6アドレスに「N/A」が表示される場合があります。
OSのツール(Windows Server:ipconfig、Red Hat Enterprise Linux:ip addrなど)を使用して確認してください。



正常時の表示例



現象発生時の表示例

● **サーバーブート順序設定の注意事項**

iLO6ファームウェアバージョン1.74以下の装置では、iLO Webインターフェイスの「管理 > ブート順序」の[サーバーブート順序]からブート順序の設定をしないでください。
[サーバーブート順序]からブート順序を設定した場合、再起動や電源オフ/オン後に以下の問題が発生することがあります。

・iLO Webインターフェイスで設定した[サーバーブート順序]の設定が保持されない。
・システムユーティリティで無効に設定していたブートデバイスが予期せず有効に設定され、[サーバーブート順序]に表示される。
・[サーバーブート順序]がデフォルト値に戻る、または予期せぬ設定に変更される。

ブート順序の設定は、RBSUの「Boot Options > UEFI Boot Settings > UEFI Boot Order」で実施してください。

5) OSに関する注意事項

● Windows Server(R) OSご使用時の注意事項

32コア(物理コア)を超えるプロセッサーを搭載している場合、Windows Server(R) 2019でシステム情報(Msinfo32.exe)ツールとタスクマネージャーの[パフォーマンス]タブに、プロセッサーのソケット数やコア数、L1キャッシュとL2キャッシュのサイズが正しく表示されません。
詳細は、下記のリンクを参照してください。

Windows Server(R) 2019サポート情報
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140106598

iLO WebインターフェイスまたはSystem Utilitiesでは正しいCPU情報が確認できます。

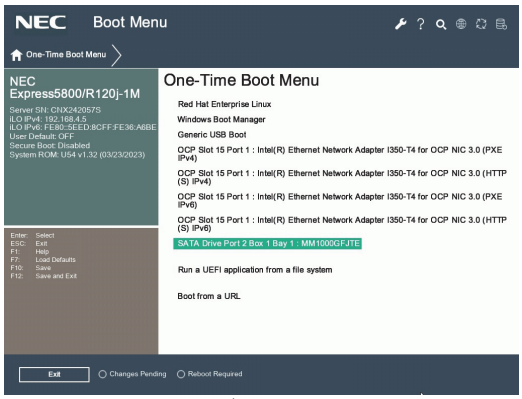
● Linux OSご使用時の注意事項

OSが自動的に認識するLOMやオプションNICのデバイス名を使用してください。独自udevルールを追加する際、PCIアドレスを基準にNICデバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。
また、PCIアドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCIアドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCIスロットへのカード増設/抜去およびCPUの構成変更を行わないでください。PCIバスのアドレス情報が変化し、PCI接続のデバイス名に影響が出ることで、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● Red Hat(R) Enterprise Linux(R)ご使用時の注意事項

ワンタイムブートメニューから起動する場合、OSブートマネージャー(例: Red Hat Enterprise Linux)を選択してください。
OSがインストールされたHDDやSSDなどのブートデバイスを選択したとしてもOSがブートしない場合があります。



ワンタイムブートメニュー画面

● Red Hat(R) Enterprise Linux(R) (x86_64)起動時のsyslogにPCI関係のメッセージが記録される

Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 8 (x86_64)起動時のsyslogにPCI関係のメッセージが記録される場合があります。

```
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0c.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:0f.0: PCI INT A: not connected
kernel: pcieport 0000:00:10.0: can't derive routing for PCI INT A
kernel: pcieport 0000:00:10.0: PCI INT A: not connected
```

PCI-Expressからの割り込み処理の割り当てができないことを示すメッセージです。
当該機種では、メッセージが示すPCIデバイスは未接続のものであり、動作に影響はありません。

● **RAID監視通報方式の変更について**

VMware ESXi/ESX において、RAID 監視通報は SNMP Trap を利用してください。
詳細は、下記の Web サイトを確認してください。
・ NEC サポートポータル
https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=3140108419

● **VMware ESXi 7.0/8.0ご使用時の注意事項**

システム ROM バージョン 2.32 未満の適用装置では、hostd.log に以下のメッセージが記録されることがあります。

```
Skipping interrupt routing entry with bad device number: 176...
```

システムROMバージョン2.32では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

6) 全般の機能に関する注意事項

● **N8104-208 10/25GBASE接続LOMカード(SFP+ 2ch)ご使用時の注意事項**

N8104-208 10/25GBASE接続LOMカード(SFP+ 2ch)にて、Wake On LAN機能を用いて本体装置の起動を行う場合、マジックパケットは本体装置をシャットダウンして、電源がオフの状態で受信してください。
本体装置が稼働中にマジックパケットを受信した場合、その後本体装置がシャットダウンされ電源がオフに移行した後に、自動的に本体装置の電源がオンになってしまいます。

● **N8101-1885/1886 CPUボードご使用時の注意事項**

下記のCPUボード搭載装置にWindows Server 2019を導入し、かつ、Starter Pack(バージョンS8.10-013.05)を適用した場合、Intel(R) QuickAssist Technology (Intel(R) QAT)ドライバーがインストールされません。

N8101-1885 CPUボード(24C/2.20GHz/Silver 4516Y+)
N8101-1886 CPUボード(8C/3.20GHz/Gold 5515+)

詳細はNECサポートポータル「Express5800シリーズ Starter Pack Version S8.10-013.05」公開ページのインストレーションガイド(Windows Server 2019編)を確認してください。
https://www.support.nec.co.jp/

(「NEC サポートポータル内検索」より、「Express5800 Starter Pack Version S8.10-013.05」を検索)

● **N8103-184/E184 SASコントローラご使用時の注意事項**

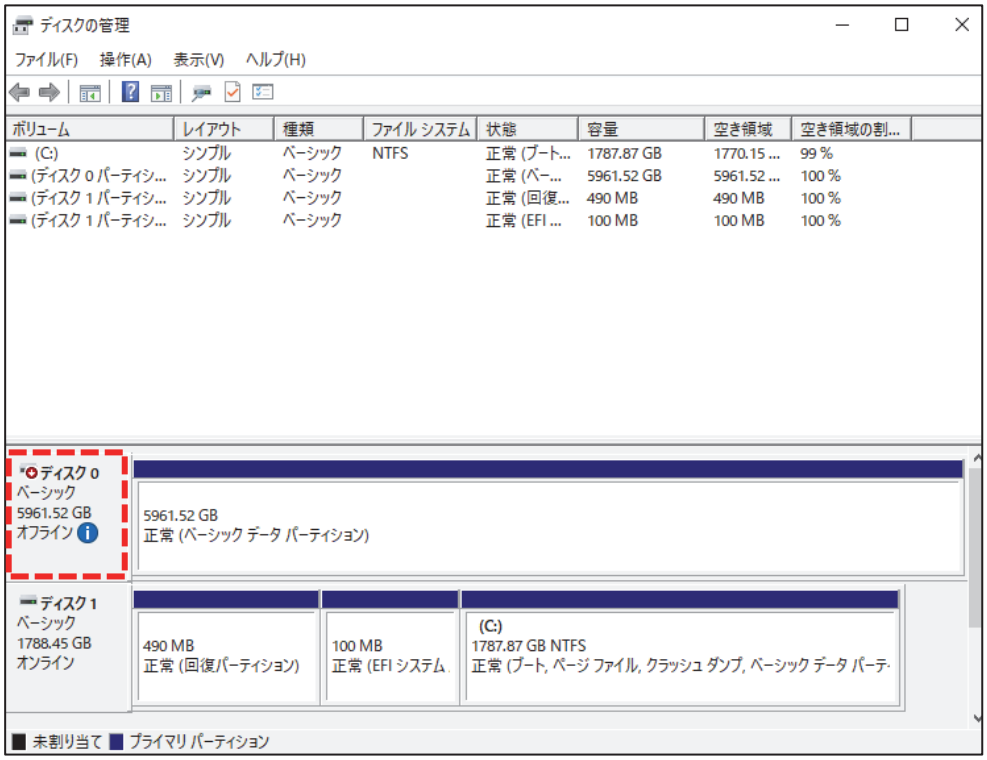
N8103-184/E184 SASコントローラを使用する場合、iLO Webインターフェイスの「System Information > Storage > Storage Controller」のStatusが「不明(Unknown)」と表示される場合がありますが動作に影響はありません。

● N8103-244/246 RAIDコントローラご使用時の注意事項

・システム ROM バージョン 2.32 未満の適用装置では、iLO Web インターフェイスの One-button セキュア消去レポートの位置(Location)情報が実際のドライブの搭載スロットと異なることがありますが、One-button セキュア消去の動作は、正常に完了します。
消去結果は「成功」の表示で確認してください。

システム ROM バージョン 2.32 では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

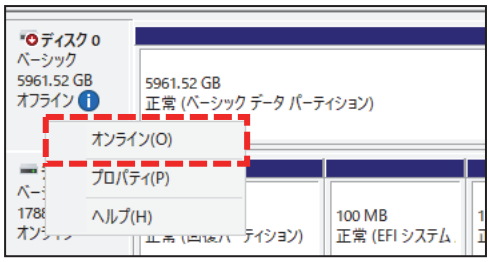
・ Windows 環境でファームウェアバージョン 03.01.23.072 を用いた N8103-244 と N8103-246 の混在構成、もしくは N8103-246 を 2 枚搭載している構成の場合、起動時に OS がインストールされていないディスク(データディスク)がオフラインになる場合があります。データ消失などは発生しません。



この現象はお使いのOSがWindowsの場合でのみ発生します。
この現象が発生した場合は下記の手順を参考に「ディスクの管理」よりディスクをオンラインに変更してください。

[ディスクの管理からオンラインに変更する方法]

①オフラインになっているディスクの点線で囲まれた部分を右クリック



②「オンライン」をクリック

● N8103-248/249/250/251/252 RAIDコントローラご使用時の注意事項

・Starter Pack(バージョンS8.10-013.01またはS8.10-013.02)を適用した場合、RAIDコントローラのファームウェアバージョンが「52.26.3-5379(※1)または52.26.3-5487(※2)」となります。
本ファームウェアではアレイの拡張機能を使用しないでください。使用した場合、実行した処理が完了しないことがあります。アレイの拡張機能は実行するユーティリティによりメニューの名称が異なります。

System Utilities上の名称　:　Reconfigure Logical Drives
LSI Storage Authority上の名称　:　Modify Array

(※1):Starter Packバージョン S8.10-013.01に格納
(※2):Starter Packバージョン S8.10-013.02に格納

・N8103-248/249/250/251/252 RAIDコントローラ搭載済み装置のシステムROMバージョン2.32未満の場合、まれに論理ドライブ名が保存されないことがあります。
この現象が発生しても、サーバーの運用に影響はありません。発生した場合は、再度、論理ドライブ名の保存を実施してください。

システムROMバージョン2.32では、この問題が修正されていますので、アップデートを推奨します。

● オンボードSATA (AHCIモード)ご使用時の注意事項

オンボードSATA (AHCIモード)を使用するSATA HDD構成でシステムクラッシュが発生した際、OS自動再起動を設定しているにもかかわらず、まれにOSが再起動しない場合があります。その場合、iLO Webインターフェイスで電源ボタンをクリックし、プルダウンメニューの最下段の「リセット」をクリックすることによりOSが起動します。

● PCIカードの取り付けに関する注意事項

PCIカードを本装置に取り付ける際は、PCIスロットに差し込んだ後、PCIカード、またはライザーカードに付属のネジを用いてライザーカードに固定してください。
なお、工場出荷時に搭載されているPCIカードはネジで固定しています。

● 「Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure」というメッセージが表示された場合の注意事項

本装置の再起動を実行した場合、まれに以下に例示するSPDM関連のエラーが発生して、OSが起動しないことや、電源投入時セルフテスト(POST)が完了しないことがあります。

例:1. Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model) component authentication failure
　　2. System halted due to Security Protocol and Data Model (SPDM) component authentication failure

この画面で停止した場合は以下のいずれかの方法で本装置を再起動してください。

・iLO Webインターフェイスより「Power & Thermal > Server Power > Virtual Power Button」の[Press and Hold]をクリック後、[System Power]が[OFF]になっていることを確認し、[Virtual Power Button]の[Momentary Press]をクリックしてください。

・本装置のPOWERスイッチを4秒以上押し続けて、POWERランプ消灯を確認してから、再度POWERスイッチを押してください。

```
Halted system due to SPDM (Security Protocol and Data Model)
component authentication failure.
See IML and Security Log for details.
_
```

● Wake On LAN機能に関する注意事項

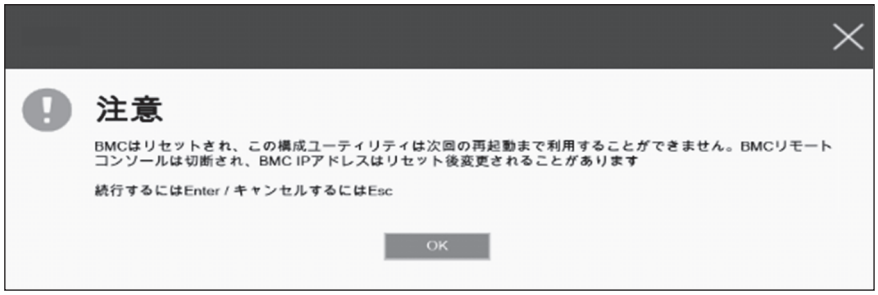
標準LANポート(BCM 5720 1GbE 2p BASE-T LOM Adptr)にてWake On LAN設定を有効にしていても、マジックパケットの受信に失敗して装置が起動しないことがあります。
その場合は再度マジックパケットを送信してください。

● **システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」の操作についての注意事項**

システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」での操作において、以下の①のポップアップが表示された場合は②以降の手順を厳守してください。
注意事項に従った操作を実施されない場合、「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止、あるいは対象サーバーに記録されているSerial Number、Product IDなどが消失することがあります。
「Memory Initialization - Start」のメッセージでPOST停止した場合は、システムメンテナンススイッチSW6にて、システム設定をデフォルトに戻し正常に起動することを確認してください。
SW6の操作手順については、メンテナンスガイドの「7.4システム設定情報の初期化」>「7.4.2システムメンテナンススイッチの操作手順」を参照してください。
Serial Number、Product IDなどが消失した場合の復旧方法は、メンテナンスガイドの「5.トラブルシューティング」>「5.11補足事項」>「Serial Number、Product IDが消失してしまった」の項目を参照してください。

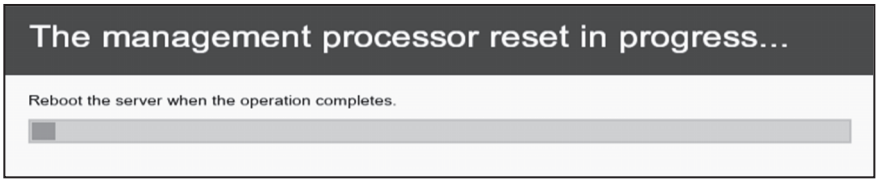
① システムユーティリティの「BMC Configuration Utility」において設定の変更を行うと、iLOの再起動を行うために、次のWarning(注意)ポップアップが表示されます。

英語表示の場合



日本語表示の場合

② 「OK」を押して進めます。
③ iLOの再起動が開始され、次のプログレスバーが表示されます。
プログレスバーが表示されている状態で何も操作は行わず、必ず3分以上お待ちください。
もし、3分以内にプログレスバーが終了した場合においても、そのまま3分以上お待ちください。



英語表示の場合

日本語表示の場合

④　3分以上経過後、以下を確認します。

A.　本体装置操作時

対象サーバー前面のステータスランプが緑色で点灯していることを確認してください。

・ iLOが再起動中　　：ステータスランプが緑色で点滅（毎秒1回）

・ iLOの再起動が完了し正常動作：ステータスランプが緑色で点灯

B.　リモート(iLO Webインターフェイス)操作時

対象サーバーにログイン画面が表示されていることを確認してください。

⑤　④において、iLOの再起動の完了を確認後、<ESC>キーを複数回押して、システムユーティリティ画面に戻ります。

⑥　システムユーティリティの「Reboot the System」を選択して対象サーバーを再起動します。

● **サーバ診断カルテについて**

サーバ診断カルテは、対象製品の稼働状況を記録し、月ごとに稼働状態の診断カルテを提供するサービスです。
サーバ診断カルテの詳細は、Starter Pack内の「サーバ診断カルテ セットアップガイド」を参照してください。

サーバ診断カルテの最新の情報および注意事項、制限事項については下記の Web サイトを確認してください。
サーバ診断カルテは最新版を使用することを推奨します。

・ Windows 対応版

NEC サポートポータル（Windows 対応版）

https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010106809

・ VMware ESXi/ESX 対応版

NEC サポートポータル（VMware ESXi/ESX 対応版）

https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?&id=9010107805

A) ファームウェア更新に伴う変更点

(1) UMONITORオプション

システム ROM バージョン2.60以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Processor Options」メニュー配下に「UMONITOR」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
UMONITOR (注1)	Enabled [Disabled]	このオプションを使用して、CPL3ソフトウェアがUMONITOR/UMWAIT命令を使用するように構成します。

[　]: 出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.60以降で追加されるオプションです。

(2) Uncore Frequency RAPLオプション、CPU C1 Auto Demotionオプション、CPU C1 Auto Undemotionオプション

システムROMバージョン2.60以降にて、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Power and Performance Options」メニュー配下に「Uncore Frequency RAPL」オプション、「CPU C1 Auto Demotion」オプション、「CPU C1 Auto Undemotion」オプションが追加されます。

オプション	パラメーター	説明
Uncore Frequency RAPL (注1)	[Enabled] Disabled	このオプションは、実行平均電力制限(RAPL)バランサーを有効にするかどうかを制御します。このオプションを有効に設定すると、アンコアの電力バジェットがアクティブになります。
CPU C1 Auto Demotion (注1)	Enabled [Disabled]	CPUが自動的にC1に降格できるようにします。
CPU C1 Auto Undemotion (注1)	Enabled [Disabled]	CPUがC1から自動的に降格解除できるようにします。

[　]: 出荷時の設定

(注1)：システムROMバージョン2.60以降で追加されるオプションです。

■商標について

EXPRESSBUILDER®、ESMPRO®は日本電気株式会社の登録商標です。
Microsoft®、Windows®、Windows Server®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel®、Xeon®は米国Intel Corporationの登録商標です。
Linux®は、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標です。
Red Hat®、Red Hat Enterprise Linux®は米国Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
VMware is a registered trademark or trademark of Broadcom in the United States and other countries. The term "Broadcom" refers to Broadcom Inc. and/or its subsidiaries.
その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

■本件に関するお問い合わせについて

本書の内容に不明点がある場合は、下記のファーストコンタクトセンターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：ファーストコンタクトセンター
ＴＥＬ　　：0120-5800-72
受付時間　：9:00～12:00　13:00～17:00　月曜日～金曜日(祝日を除く)
※ 番号をお間違えにならないようお確かめのうえお問い合わせください。

NEC

* CBZ-057873-101-05 *

2026年9月 第6版